

選院参正大軍抜の体

「日本の防衛産業の維持は最年の課題だ。日本の防衛を支える技術、産業基盤が大切だと国民に分かってすぐ訴えていきたい」。公明党的山口那津男代表はの月27日に軍需品をつくる企業を視察した後、そう語りました。(公明新聞同28日付)。自由党や日本維新的会なども軍事費拡大を囁えただけでなく、軍需産業の必要性を主張するまで踏み込んだのです。

トライアルが続く

当の軍需産業には、多くの問題があります。その一つが高コスト体質です。最近では防衛省が調達する兵器のコストが当初計画よりも大幅に高騰し、政府内でも問題視されています。

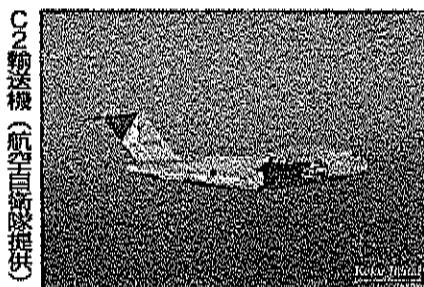
財務省は財政制度等審議会の分科会(昨年11月15日)に、「川崎重工が製造したC2輸送機とP1哨戒機の機種から取得、廢棄に至る「ライフサイクルコスト」の差違を提示しまし

C2輸送機とP1哨戒機のライフサイクルコスト(LCC)の推移

機種	LCC設定時の見積もり	2021年度の見積もり	増額分
C2輸送機(22機分)	1兆7296億円(1機あたり約786億円)	1兆9407億円(1機あたり約882億円)	2111億円
P1哨戒機(70機分)	2兆2850億円(1機あたり約326億円)	3兆8392億円(1機あたり約548億円)	1兆5542億円

*C2のLCC設定時は2009年度、P1は2008年度 財務省の資料から作成

兵器のコスト増頻発



米日軍需産業を潤す

た。
C2は2009年度の見
積もりが1兆7296億円
でした。それが21年度の見
積もりでは2兆111億円も
増加していました。

川崎重工の関係者は「C
2は開発で苦労した。防衛

省が要求する積載量を実現

するためには、機体を軽く
した。

財政省の分科会では「本
当にこれで儲かるのかどう
かわからない、コスト管理がな
く厳しい意見が委員会から
出てこます。

特に輸入部品の高騰が深
刻です。財務省によると國
產航空機といつても、45
%割が輸入部品で構成され
ています。しかも、ある航
空機では國內部品の価格高
騰が約1割増だったのに對
して、輸入部品は約5割増で
した。輸入の機体内アヘ
ンドルで価格が約10倍にな
った例もあります。

軍需商社の元幹部は指摘
します。「国産航空機とい
つても、エンジンなどは米
国企業から調達するより米
国から求められる。結果、
部品も米国企業から調達す
るようになる。国産でき
るものでも高い部品を買わ
れる」とも高い部品を買わ
れる。日本は米国の属国
みたいなものだ」

車両商社の元幹部は指摘
します。「国産航空機とい
つても、エンジンなどは米
国企業から調達するより米
国から求められる。結果、
部品も米国企業から調達す
るようになる。国産でき
るものでも高い部品を買わ
れる。日本は米国の属国
みたいなものだ」

車両商社の元幹部は指摘
します。「国産航空機とい
つても、エンジンなどは米
国企業から調達するより米
国から求められる。結果、
部品も米国企業から調達す
るようになる。国産でき
るものでも高い部品を買わ
れる。日本は米国の属国
みたいなものだ」

車両商社の元幹部は指摘
します。「国産航空機とい
つても、エンジンなどは米
国企業から調達するより米
国から求められる。結果、
部品も米国企業から調達す
るようになる。国産でき
るものでも高い部品を買わ
れる。日本は米国の属国
みたいなものだ」